

令和元年度第2回養老町地域公共交通会議 議事概要

●日時 令和元年12月5日(木) 14:00~15:10

●場所 養老町役場 4階大会議室

●出席者〔委員〕

中部運輸局岐阜運輸支局	鈴木 隆史
岐阜協立大学学長	竹内 治彦
岐阜県庁都市建築部公共交通課	森 隆行
岐阜国道事務所大垣維持出張所	蒲 雅志
大垣土木事務所施設管理課	金森 隆史
養老警察署交通課	出口 哲
大垣警察署交通第一課	長谷川 誠
海津警察署交通課	荒木 明弘
名阪近鉄バス(株)	山田規光久
スイトトラベル(株)	西川 勝則
岐阜近鉄タクシー(株)	高橋 政信
養老線管理機構	伊藤 要一
養老鉄道(株)	山川 雄一
岐阜県バス協会	上嶋 英樹
名阪近鉄バス労働組合	太田 智和
養老町区長連絡協議会	安田 澄雄
養老町老人クラブ連合会	大橋 正典
養老町老人クラブ連合会	澁谷 八代子
大垣市生活環境部生活安全課	馬淵 義昭
大垣市上石津地域事務所	伊藤 昌弘
海津市市民環境部市民活動推進課	小野澤孝則
輪之内町	西脇 元彦
養老町長	大橋 孝
養老町産業建設部長	田中 一也

〔随行者〕

名阪近鉄バス(株)	三好 高広
大垣市生活環境部生活安全課	西川 智樹

〔事務局〕	養老町産業建設部建設課	高橋 正人
	養老町総務部企画政策課	松岡 弘泰
	養老町産業建設部企業誘致・商工観光課	川地 憲元
	養老町産業建設部建設課	高木 善太郎
	養老町総務部企画政策課	伊藤 良彦
	養老町産業建設部建設課	香川 明美
	養老町産業建設部建設課	谷江 佑介
	養老町産業建設部企業誘致・商工観光課	岩田 英之

●欠席者 大垣タクシー（株） 大角 勇雄

- 議題
- 協議事項(1) 計画目標の見直しについて
 - 協議事項(2) 公共交通ネットワークの再編イメージについて
 - 協議事項(3) アクションプログラムについて
 - 協議事項(4) 養老町地域公共交通網形成計画(案)について
 - その他 パブリックコメントの実施について
令和元年度第3回会議の開催について

●議事

協議事項(1) 計画目標の見直しについて

○事務局から説明

(資料1 計画目標の見直しについて に基づき説明)

・2点見直しを行った。

①目標値算出のための現況値データの見直しを行いました。

養老鉄道の利用者数について、5年に2回しか実施されない調査データを用いていたため、毎年事業評価することができないことから、毎年確認がとれるデータへ変更するため、養老鉄道の利用者数の根拠となるデータを見直しました。

②目標値の見直しを行いました。

計画の達成状況をはかる目標値について、これまで「公共交通全体の利用者数」を設定していたが、「地域と協力した公共交通に関する取り組みの件数」に変更。

・目標指標を「地域と協力した公共交通に関する取り組みの実施」と定め、目標値を5件と設定。地域と協力した取り組みとは、アクションプログラムに定める各地域で公共交通について話し合いをしていただく場を設けた件数、利用方法の講習会などを実施した件数。

・これまでの目標値「公共交通全体の利用者数」については、網計画の策定にあたり、各種事業を実施することで、利用者数の減少を抑制していくことを目指しており、各種事業の達成度を確認する為の参考値ということで計画に記載を残すこととした。人口減少に伴い、利用者数は減っていくことが推測される中で、各種事業を実施して利用者数の減少を抑制していきたい。

○委員からの質問・回答、意見・提案等

・全体目標の目標値について、「地域と協力した」ではなく、「地域が協働で」という表現にすると、色々なものが含まれるので、こちらの方がいいのではと思う。

→地域住民や交通事業者、各種関係機関の協力をいただくこととなりますので、全体で取り組んでいくことが分かる表現に変更したいと思います。

・公共交通全体の利用者数の算出データが前回までと違いますので、説明を頂けますか。

→これまでは利用者の実測の数値を使用しており、こちらは概ね5年に2回程度の実施の数値です。見直し後は事業評価の観点から毎年測ることのできる数値に置き換えました。

・利用者数について、同じタイトルで違う数字が出てくると混乱しますので、注釈などをつけて分かるようにしていただきたい。

→関連する数値が現況と目標で出てきますので、わかるように注釈をつけます。

協議事項(2) 公共交通ネットワークの再編イメージについて

○事務局から説明

(資料2 公共交通ネットワークの再編イメージについて に基づき説明)

変更点4箇所

- ・公共交通ネットワークの再編イメージの下図の差し替え。
- ・名阪近鉄バス大垣多良線について町内運行ルートについて見直し。
- ・上石津地域方面の都市間連携路線について運行ルート案について見直し。
- ・オンデマンドバスの実証実験についてルート案を追記。

○委員からの質問・回答、意見・提案等

意見等なし

協議事項(3) アクションプログラムについて

○事務局から説明

(資料3 アクションプログラムについて に基づき説明)

- ・アクションプログラムについて、前回会議以降、具体的な取り組みについて空欄であった部分を中心に、関係機関との協議・調整を行い、具体的な取り組みの内容について追記した。
- ・公共交通ネットワークの再編事業については、養老鉄道は養老線の網計画に基づき利用促進施策を実施、路線バス海津線は、まちづくりとの整合性を図りつつ運行ルートについて再検討を行っていく。オンデマンドバスや養老公園観光シャトルバス、タクシーの運行や周辺市町のコミュニティバスとの連携は、運行の継続・改善を実施。
- ・大垣多良線は、町内での利用実態を踏まえた路線の再編を行いたいと考えており、来年2020年度に検討協議を行い、2021年度以降再編実施を予定。
- ・オンデマンドバスの運行は、利用しやすい運行方式について実証実験を実施。利用実績の高いバス停を経由する運行ルートの設定を検討。
- ・交通結節点の整備は、わかりやすいバス停看板の設置や駐輪場の整理・清掃活動の継続実施を追記。各交通結節点の機能強化を図っていく。

・利用促進施策は、商業施設・観光施設と公共交通が連携した企画切符の発行の実施。また、わかりやすい公共交通情報の提供として、鉄道・バス・タクシー等の公共交通総合マップの作成等情報提供の拡大を図る。

・評価及び推進体制は、年1回以上、地域公共交通会議の開催。必要の都度、招集会議もしくは書面議決等で開催。

○委員からの質問・回答、意見・提案等

・①大垣多良線について、路線を短くする時の時期（廃止の申し出時期等）について、事業者としての考えを聞かせてください。

②再編について、絵だけ見ると路線が切れただけのように見えてしまうため、同時にオンデマンドバスの利便性が向上するという書き込みがあると思います。個別事業で、インターネット予約や乗り方ガイドマップの作成などがあるので、今より使いやすくなるというメッセージがあった方が、後退感がなくていいと思います。

→①廃止申請は6ヶ月前というルールがありますが、地域公共交通会議の協議により1ヶ月に短縮できるということで、6ヶ月という縛りはないと思っています。歴史があり、市町村をまたがっている路線のため地域ごとに事情や考え方が違い、何かと議論が重ねられて運行している路線であります。廃止の後に地域のみなさまの移動手段を確保することを考えていただきたいです。

県補助金のルールに則れば、10月からの運行となるかと思いますが、最短で2021年10月再編というになるのかと思います。

なくすことは簡単ですが、なくしてしまったら二度と戻らない路線です。地域のニーズや自治体の政策を鑑みながら検討をしていきます。

→②大垣多良線の代替の部分については、再編の中の取り組みの一つとなるので、実施内容のところに、オンデマンドバスについての実施事業について書き込みをします。

→再編の時期については、今後、関係機関と協議を進めながら決めていきたいと思っています。

・養老町の方で北部に交通拠点位置づけられているなかで、上石津地域でも協議を進めており、こうした拠点を活用させていただきながら移動ニーズに対応したサービスを進めていきたいと検討しています。

協議事項(4) 養老町地域公共交通網形成計画(案)について

○事務局から説明

(資料4 養老町地域公共交通網形成計画(案)について に基づき説明)

・計画案は、本日これまでに説明した変更・追記事項を反映しました最新版となっている。これまでに説明した資料以外の追加や内容修正を行った箇所は次の通りです。

・P63 アクションプログラムの利用促進施策として実施する内容を一覧表にまとめた。P64～からP66は、具体的な取組みということで、内容を本町の取組み事例に変更。

・P64 企画切符について、まるごと肉まつり養老で発行した企画切符を紹介。

・P65 総合公共交通マップ・利用ガイドマップの作成について紹介。

・P66 地域住民との連携・協働の取組で、昨年度実施した地域懇談会を紹介。

・P71 個別事業および路線単位の評価指標・目標値：養老鉄道の乗車人員について、利用人数の根拠データを見直し修正。

○委員からの質問・回答、意見・提案等

・オンデマンドバスの実証実験を実施されるということで、これについておおよそのルートは決まっていますか。

→現在検討しているルートについては、南部交通拠点付近を出発点として、利用者の多いバス停、具体的には養老ニュータウン、養老インターの近くの整形外科、バローを経由し、西美濃厚生病院など高田地区の施設に向かうルートを考えています。

・①オンデマンドバスの実証実験について、セミデマンド方式と既存のデマンド交通との違いを教えてください。

②「分かりやすい公共交通情報の提供」に関連して、実証実験にあたって何かマップ等の情報提供を行うのか教えてください。

→①既存のデマンド交通については、予約に基づいて乗降時間が決まる運行であり、セミデマンド運行は、何点かのバス停について、あらかじめ時間を決めておいて、そのバス停間の運行について、時間に大きく影響しない範囲で、他のバス停での利用があれば経由をして運行するものとなります。

②マップについては、実証実験の内容を反映することは考えていません。実証実験に関して、それだけを掲載した資料を作成して、住民への周知を進めたいと考えています。その後、本格運行となった際には、正式な利用マップを作成していきます。

・①住民の皆さんとの話し合いの場に関して、経営的なマインドを持った話し合いになるといいと思います。要望を聞くだけでなく、住民のみなさんに情報を開示することで、賢明な判断をしていただけたと思います。

②P71の注釈ですが、1とか2とか書いてないものですから、どれがどのマークなのか分かりません。カウントするデータ元についても明記していただいて、マークの対応が分かるようにしていただきたいと思います。

→①地域との話し合いの場については、他の事例も参考にしながら、より良いものにしていきたいと思います。

②どの注釈が分かるように修正します。

○指摘箇所について事務局で修正し、会長確認後、パブリックコメントを実施することで同意を得た。

その他

○パブリックコメントの実施について

・事務局より 資料5 パブリックコメントの実施について に基づき説明

○第2回養老町地域公共交通会議の開催について

・事務局より 次回会議は令和2年2月下旬開催予定。
後日、書面にて案内する。